

夕霧書
替文章
卷之一
林亭
鬼卯作
東南曲
上雲画



~ 13
3040
1



門 へ 13
3040
卷 1

へ 13
3040
1-5

夕霧書替文章類禱

必真山人

陶山叟_ニ遠_レ之日坂_ニ賣_テ畫_ヲ爲_シ生
年方七十筆力不_レ衰_ハ近_コ以其字_ヲ
名士美人義夫烈婦之_ヲ草_ヲ更_ニ心_ニ
讀本_ヲ讀_ム本_ト者國字小説也蓋吾
鄉_ニ號_ニ稱_ス醒世老人菴笠隱者_ト

夕霧卷之一

四一

昭和九年
七月三日
辨末



源信明朝臣

御蘭姫

あはれ
 おのゝこ
 かかぬ
 せむし
 せむし



桃井右京之進

筒井直宿之助

奉納
 氏
 南無地藏菩薩



八十島
吉兵衛



右京之進の僕
源八

三上山
百二右衛門



就鳥塚貞五郎



在原業平

月やらの
まやらの
あやらの
藤屋
伊左衛門

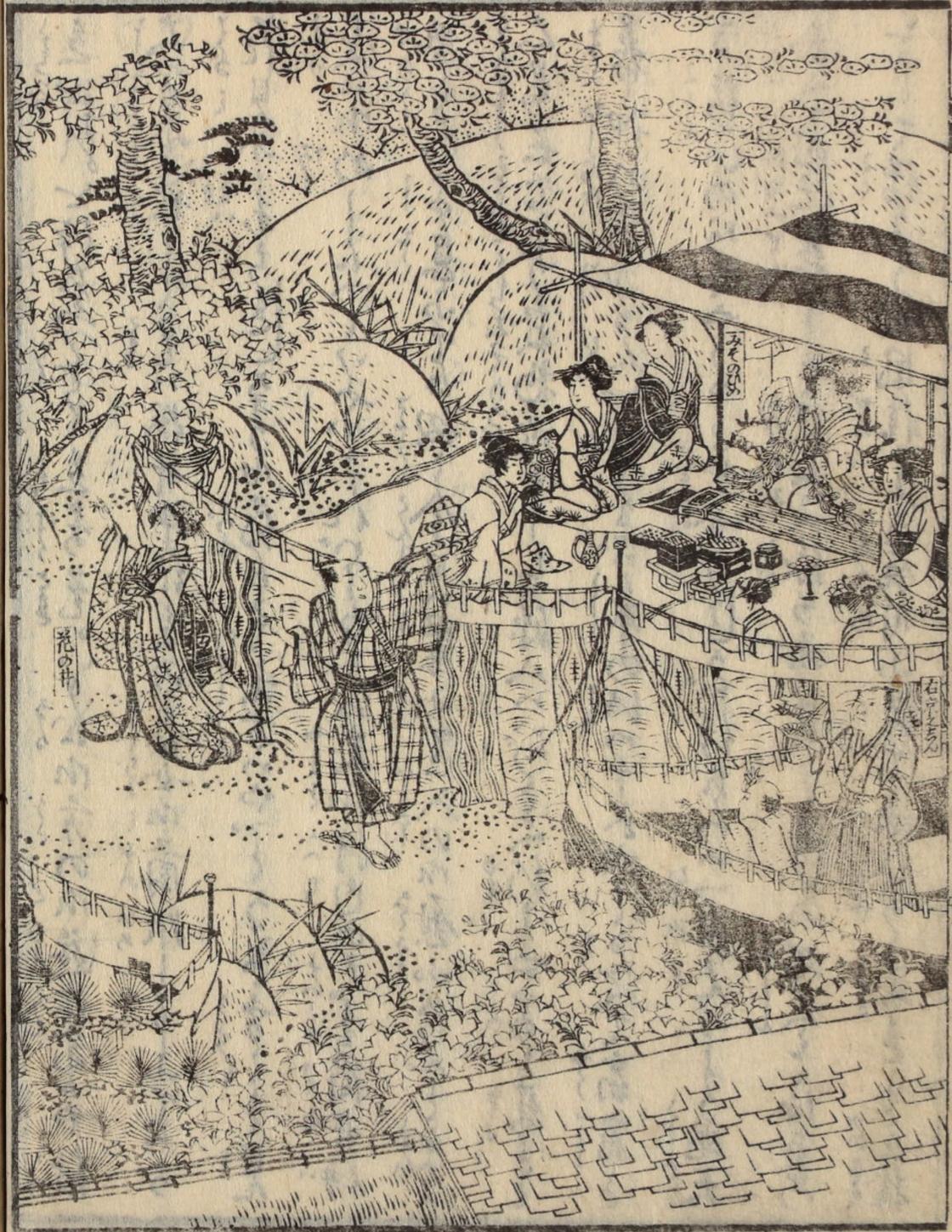
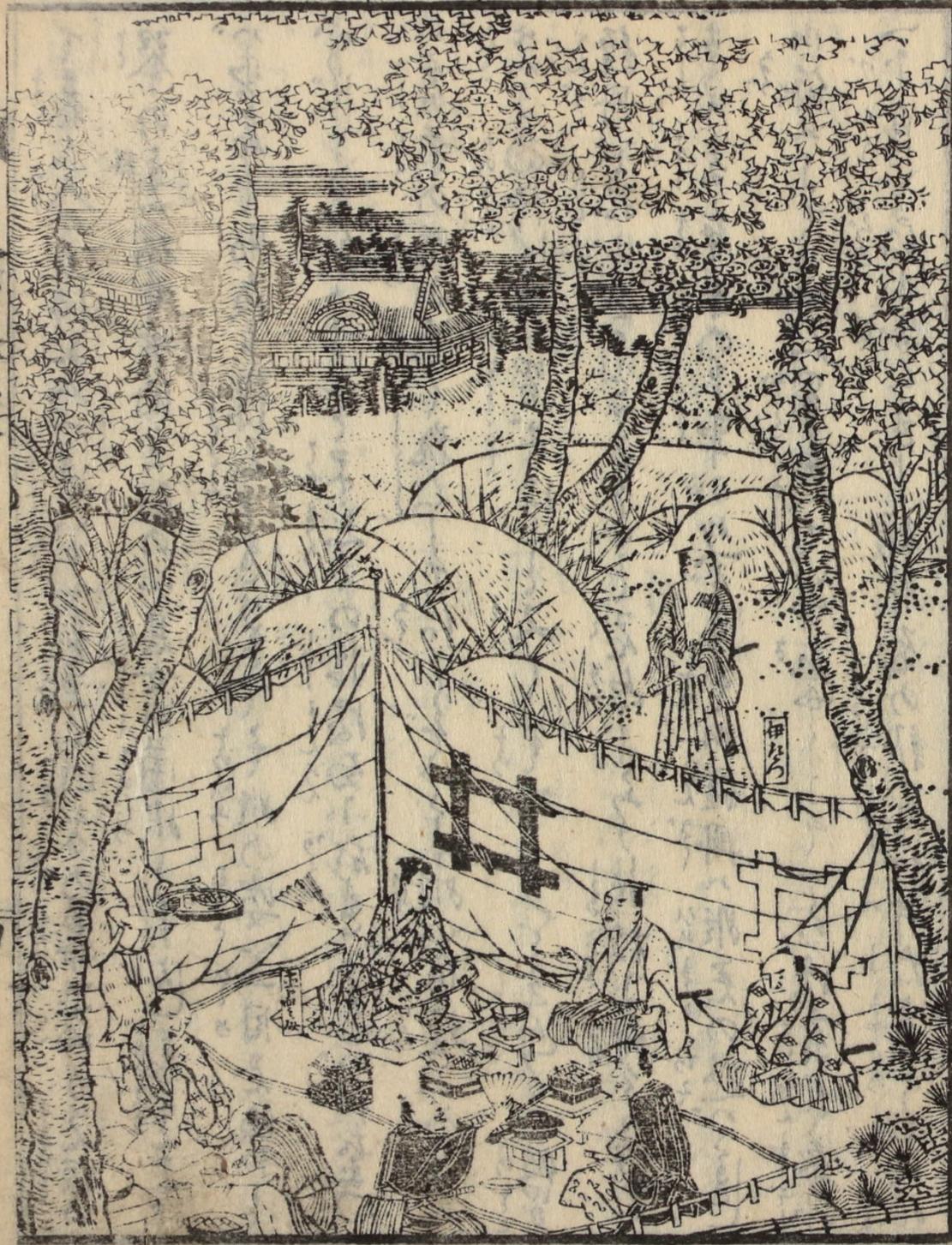
扇屋
夕霧

此花をよそ韓雲孟飛の如契り清く次出此をふのをも
 ちて次をよそ浪花の如家最座存在集といふものなり
 井家の鍍入して法事と賭ひうりよそ今浪よそ石とあみ
 色ハ衣服大小の更目と幾と事ともうりけ最座存在集の
 去る秋の次見まうり後家よそ倅倅を席十七せうると元
 後させ倅倅と号らせ法事か督の事ハ家長忠なる
 二似せ自分ハ花中と好く茶湯香及瓜の楽くそ是も
 浪花よそ奔るる兵男うり多はんよ思ふ中うせよ影ひ
 るきよ人女と妻よせんそ是のい仏神よ祈りるそ可
 時程の鍍入るよそハ上系して筒井並名く助殿一機と何い

うる小能くそまはれはは生の初初の花ハ智也か無るよし
 逗留して榻褥せよ家も將軍と時と影ひて名不の花と
 尋んとせらよ留らるるよ倅ならも風流るり男るよはん
 うり何と何とをよ小影いよまんそ影と逗留してりうら
 此花よ女ハ將軍と榻褥のりよ影いふれば飛輝と笑ハ
 世のいこの風流の影いありおの花と残るく見んてこよと也
 一のうハ並名く助那まよと此倅中よまよりの最座存在
 集よ最堂一人仲間一人よ初厨と持せ縁圍清水より
 の花と見ん向り最名の前よりまごうり此歩約よと日と
 美人氏目るよそ日ハ筒鍍りりお日ハ小をより清流の正

山の辺に依りんと物々しくより小筒抱き用として山雲の
風系能不入幕打也一花の妻を始りたるころこ入
橋の本乳も是も幕打也一坂の妻をいやくさく梁
の産も拂ふ斗の姉をめて妻の孫生の曙も四方の山辺
と依りて花盤もあつた雲のわらぬもいそぐさうけ
ると慈徳の作の今候と親し声添よか陸頼伽も是よ
いづくで及ぶべきと重宿る物も軽いの物もよそでせられ
しう去りてもいふ人ぞとん帰く侍たる見えて来ると
りつよ長てするとの幕小を妻便敷てせんととせ辺り
道遥まらよ一人の大男ト戸と見てははは後まで幕の外へ

と出れと侍たるとくは妻をいふ水方の水遊境もや彼
大男今候して是の橋井中納玄の息女山園娘とりあてはが
花見ふまらとほしうる水見んそえ方やはとる方と見
えぬ水ぬしんとしふおさんごうといた和何内の大至尚井侍
勢者の子息あては扱く今日の築あて入の山園小みんとはよ
ん易そそおを扱つら源八いづとく約いやあはまこと
幕押めてあつ人と見んは年の以の十五六と入て密窟と
る移いのらてやうるあ女らじふ侍たらい一月あつるよう絶た
かへ花に花してねんは依り居りたるこの婦人を侍たる
とて情しく無風情して屍同小えて源八あはまことと云捨



の 花見 室
園 見 室

大正 六年 十一月 五日

あまと思し〜花の井も経冊とらすか
うらまの女井も〜と幕の介つけ出経冊と
また男のむまび付〜経冊るに女のもの
りもよ〜と右佐佐木〜奪ひ〜とせり
は非も思し〜幕の外〜おま〜男の
はまも思し〜物取終お〜と〜の幕より
よ〜安縁よけ母の人〜も思し〜唐士の揚
ともい〜け人〜増さ〜と思し〜歩
もゆら〜魚と目合せ〜と〜高時
者〜物小〜人〜男〜色〜唯も目
あまと思し〜花の井も経冊とらすか
うらまの女井も〜と幕の介つけ出経冊と
また男のむまび付〜経冊るに女のもの
りもよ〜と右佐佐木〜奪ひ〜とせり
は非も思し〜幕の外〜おま〜男の
はまも思し〜物取終お〜と〜の幕より
よ〜安縁よけ母の人〜も思し〜唐士の揚
ともい〜け人〜増さ〜と思し〜歩
もゆら〜魚と目合せ〜と〜高時
者〜物小〜人〜男〜色〜唯も目

あまと思し〜花の井も経冊とらすか
うらまの女井も〜と幕の介つけ出経冊と
また男のむまび付〜経冊るに女のもの
りもよ〜と右佐佐木〜奪ひ〜とせり
は非も思し〜幕の外〜おま〜男の
はまも思し〜物取終お〜と〜の幕より
よ〜安縁よけ母の人〜も思し〜唐士の揚
ともい〜け人〜増さ〜と思し〜歩
もゆら〜魚と目合せ〜と〜高時
者〜物小〜人〜男〜色〜唯も目
あまと思し〜花の井も経冊とらすか
うらまの女井も〜と幕の介つけ出経冊と
また男のむまび付〜経冊るに女のもの
りもよ〜と右佐佐木〜奪ひ〜とせり
は非も思し〜幕の外〜おま〜男の
はまも思し〜物取終お〜と〜の幕より
よ〜安縁よけ母の人〜も思し〜唐士の揚
ともい〜け人〜増さ〜と思し〜歩
もゆら〜魚と目合せ〜と〜高時
者〜物小〜人〜男〜色〜唯も目

夫とむとあはれくは不審一思きらん系ふの浪花にて少
 へ人もあつらふる者存なすつと一者より御座るて此世し
 中一筒井家の系教も此教の飛雲と見始るは何とそ
 嫁系とあつらひくも彩ひ表立ての嫁いあの時系家の仁本
 細川のくくてもねいびきるれども内か少く中納言松田系引
 の上こそ縁辺のゆほよの度素号下へ執持松井系系
 を及の雨家来るらばは此世の村内か的事と此世の
 夫ととあはれく一と修く一夫男大と變るも是の思ひもあはれ
 事中心下郎くときの内かくつりとも中出さるべき事よは
 真平の免下るべしと交引縁は存たあまて縁の事いあ

此の思ひくは中く人力のぬふくふらくは只く是下乃
 全悉く此世一トきくままでの事あくくはあつらは下の嫁と
 中少てはるくはと事と分てつよよ主人の世と事いへ易き
 りるるく下郎が何といや主人を用て中を耐持な事あ
 とむくして夫の思下と此世のトくまはは自た系とを
 及の雨息女と此世のきりきり系不斗見初志の痛ひよ
 侍はむ斗少な系中を及の雨息女町人風情の存な事あ
 夫よ中主人事の思ひもあはれくは下もせめて主人の嫁
 と雨息女よ此世のトされるべきく世の思ひも夫の思ひ
 不願ひもくは源八もを修くくくくくとおふ一嫁と系あふの

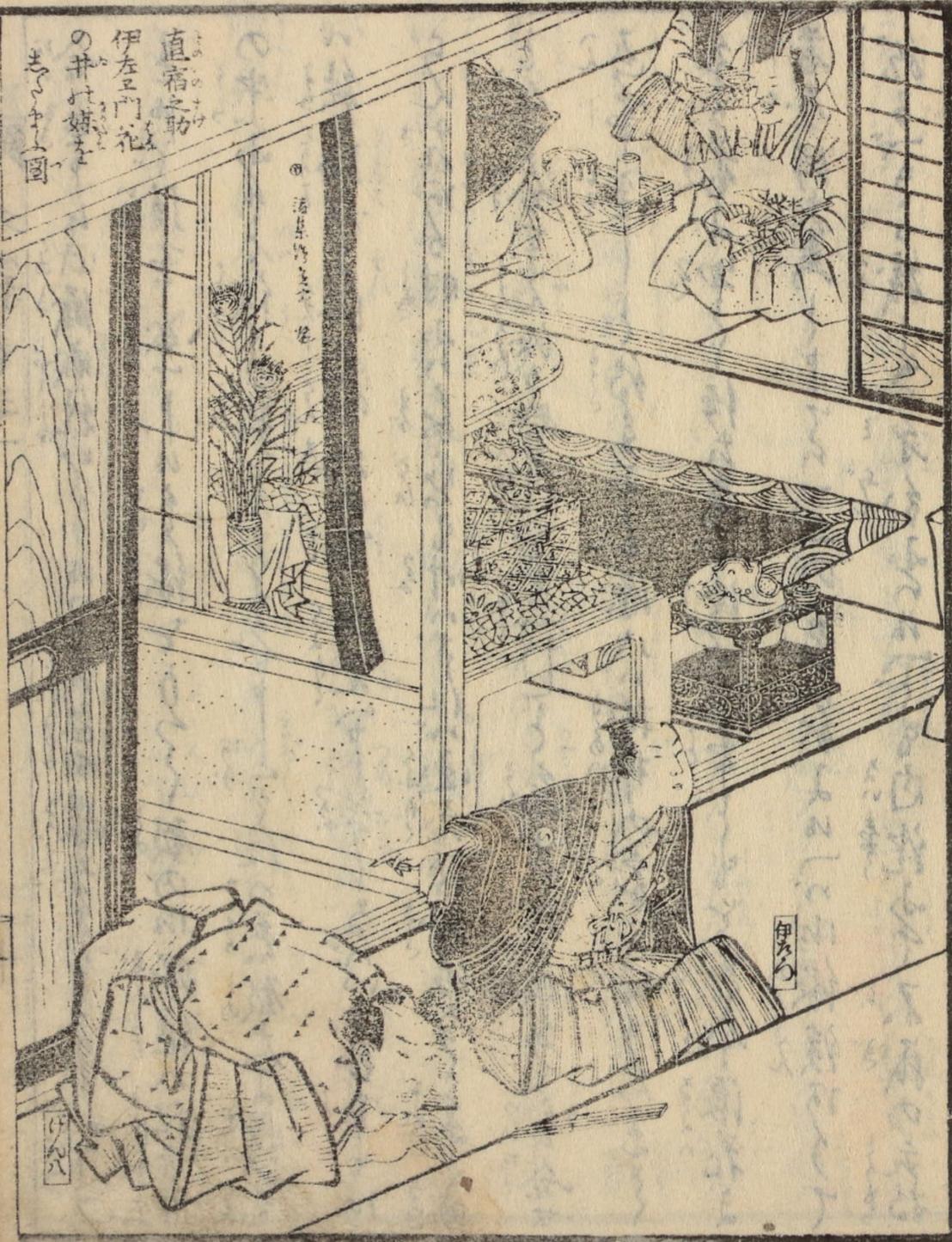
介とやらん義影の町人風情と作らまは下も高村浪花よ
 て一二紙筆入家法因事でも筆多き浪行の浪名家小身
 のたふあしをさるが舞臺よまこののふ不義のた持のた
 さまいくい下も美よ息女と出まひるさうか思ふさうか
 下郎主人いさうとも執成中一様一さまさの技は
 とも主人の目とくさき不義の嫁の技をま一といふ
 候屋の海流びい我の義知下さる國之の母親教うとも
 毎月正しき桃井屋の息女いって遠宵夜さるきを候集
 父合いとつよ源八と悦び候らゆりて主人よを候中
 世せ明日さくもぬさる中一山位不何個ふおやゆる

候屋も悦び筒井家の屋敷少て後屋候屋とぬる下さ
 色いとまよりよ小沼をさる双方へるさる

候屋の井内統玄の作

候屋のいちらあ筒井の屋敷小沼はむ名も候屋は
 けそ尾いさるぞとぬるさる候屋をさる先せん日の
 下郎よ出合の婚姻の事の中さるさ下郎おの介
 強きりの少て桃井家筒井家の内縁侯中下郎か
 先よ中も忠なりと美引さるゆと替へか中さるお
 新しぬ不まの組合の内縁侯中下郎中さる
 候入ゆいゆえの母親教の事さるもさる入ゆいゆえ

直宿之物
伊左門花
の井は娘を
志す中一圖



伊左門花の井は娘を志す中一圖

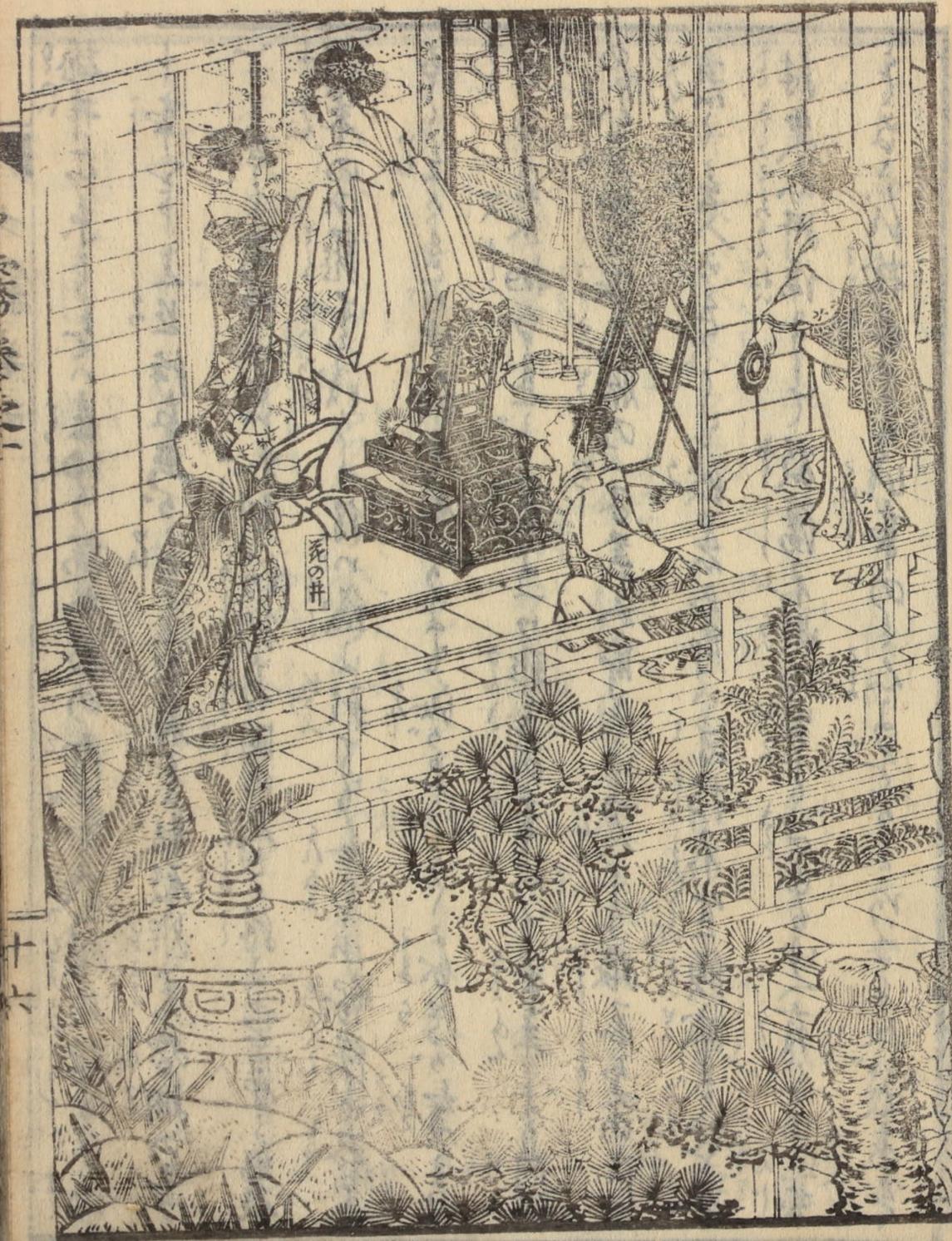
此は筒井家の名取跡といふ大寺なるべしと申海なるは
 筒井の屋敷といふも初音屋なるまじい女一人もりし内夜
 云の事ハ丸山徳の案にて去りしべしと結納日と誓を斗し
 續きし筒井家のことおふまを服とちまををきひされ
 うりまきて源八の格別のおおして美人全十枚きりしれバ
 源八後と侍しいうてけた全を納めまきと増く辞退すと
 いとも使を乞と申さるんち系うをもて納むべきやしと
 きりぬぬん載してふ年よ位なる一人の母もんせ候せし
 んと候る事限りかしまより丸山徳の案にて候まの式は
 るべしと申者も好夜より正末を服と餐後の後へははえ

いたる事しをい娘花の井と名つき源八徳とも入申さるるを存左
 美室と曠とくを飾おひしうり娘花の井も所家の橋
 揚り小見娘一人男をまじいしとくしよと親子夫婦の
 益とぬるしうりも時存なるた系うをもふむひかく扱子
 とろり侍らも海き因縁うて侍らんまう付男殿と頼入
 育子細い筒井の名取跡なる所家の花見のおり橋井家
 の娘と見ん初うい何年嫁まよ申度形い高時將軍
 家取たるゆりぐさ申者も好夜なるまじい表立ての嫁と細
 川家取のにはなるべし申すは身小なりやべし内院の事い何か
 此執成れしむりしとのべしと申すを打點とせんも

鳴り渡るももろくは太和河内の大をを尊とていふ人ぞ
 後とあるんは事い糸直しく斗ふとて文引て保八と清
 一も身いゆりゆり存在あのかくあつ保よる事いよやる
 づきと固中よ入て花の井よ射る一は日よりの恋の情とま
 るまは花の井も和るしく思あらくよは「自も君と見ん地
 て静んる橋よ経冊と附」と君の見あふ時の娘とま
 けり飛燕の経冊ととまよと定ひて幕のか一出るも筒
 井家と保き思う一も保らんけんをんを管と管りあふた
 とよふく代ハる代と後らひるるは情志とぬ鳥の鳴き
 よ保八も起出て存在あつ保河内保保りて子来と近ひの案と

の不
 登せり入て先ままたての朝の向る色はあつぬゆりゆりて飛燕一
 筒井家の妻入を執りあふを忠義よれんと保と保りあふ名珠
 ハるせのいも保あつて花の井の管と打系ゆりる存在あ
 い筒井の屋敷よゆりあふりの始末とゆり橋井家の婚姻
 の事留たあふをよ中保はたよ保ひ保中納言敷一執
 中保は「中ゆりゆりぬん易思る下とて一といふまを
 船敷も保ひゆひまうふ肉と將軍も中と表向よりまへ
 と保ひあふ存在あつ保不思議の事と浪花も云やら次嫁
 と取めゆり保い末いあふる中四とてと得てあふ七

橋井家の婚姻と保八と清



十一

十一



九山
此にて

夕陽

十五

又合のよのきりてくまこし御奥合のん於座といやも在る
概と指差量いるまこしに非素とそ似おふれとつふは非もた見
のちうろく見やふんあふんるまこしに世しく只魚と紅蓮のりふ
斗るり柝け非素の母と産後よまこしるりわひを産へ中納
么後寡夫信よ言一のん花の井が母も産後よ死しけ
まこしもた系を産妻と途つて言一々の少非と花乃
井とい見非のふく非敏よの居くを産せしるり客不
阿波の八守徳塚大膳といふ人りり奸曲恥智しと高時
杉永輝ふは婿伯いそまゝ義入所産捕と在系をせ將
軍の山とあふりしうけ義入所ぬを男とそ在義の徒然

九条の傾城よ金根とまの捨をよ大酒不惟の悪徳るり横
井中納么の息女於よ衆るる義量と改は一人とい婚姻の
事と么入るり中納么をゆけの正しうらざるを悪んで
有るのふもせむ打るるふ今が尚井家縁後
ありよ付てた系をを義入所が産後よ急越先を産てよ
り産く娘の不和の非使者と産といへともぬ給を産て
さる不致の不和後尚井家より不和をよ付ていんをいん
此のりりといを産てゆりるる義入所大よ終り勝き安ん
家裁去系より入るる系よぬを産てせむをよ大和河
内志國のたちる尚井るるを系と控競つらの方を産

云語及郎るりけと假膝さぐと並ぶきりと膝うよりく
好うるるされも娘んの上妻替とらふも何れ何と云
中らぶき事もさけまべぢりん紙帳しるらふと云
汁とせしるらふと云しるらふ元来角力と好
かふと抱おきくらうに列甲賀那の巻よそと上山百
た妻といら六尺有余の角力と抱おきくらうは甲賀
忍の家より出て忍術しなす一角力の日本に隠るる力
志しそりりくらけと女と密に抜き極井家より嫁
礼妻替の事と傍りも子付汝より頼るき一糸何り帯
くより一呉るる一廣慶貞さんと何りくらば歌と収集

悪黨うき色い二と云も云伏文合系関糸とる殺せらるる
いくら捨れ下もぬのの二と云二尺樹とゆひそ戸
車いゝ家方すよん一世一尺の曠業よら仕深ゆゑ急
内廣貞下さる一と云一と云と云と云と云と云と云
いづら悪計しや娘の巻と見ゆら一

夕霧中書替文章巻之一

商人て
日用 紙大全

市家流

全部一冊



此用文章は商人日用の紙或は書圖文通書内の無引知合書を
此文を多くしるらふと云しるらふ元来角力と好
市家流
紙大全
全部一冊

